

OBD検査導入への意見・要望等

平成30年1月30日



一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会(日整連)
Japan Automobile Service Promotion Association(J.A.S.P.A)

「OBD検査」の導入については、不安全な車両、環境負荷の大きな車両の排除に資するものであり必要な措置と考えている。しかしながら、OBD検査の内容は未だ不明確な点があるものの、現時点においてはOBD検査の導入によるユーザー負担の軽減、円滑な実施等の観点から次の点について特段の配慮が必要と考えている。

- OBD検査について、その意義、制度等についてユーザーへの周知徹底。
- 検査のみならず定期点検整備を活用した予防整備制度の構築。
- OBD検査による不適合車両の判定及び整備が円滑かつ適切に行えるよう自動車整備工場に対する情報提供、部品供給、教習体制の構築。特に「特定DTC」に係るものについての迅速かつ円滑な展開。
- OBD検査の導入に当たっては、指定整備制度の活用を図るべき。
- 検査場における持ち込み検査の円滑化、効率化。特に認証工場で事前にDTCの確認が実施された受検車についての審査の簡便化、検査手数料の引き下げ。
- OBD検査を全国津々浦々円滑に開始するため、上記の対応及び体制構築のための時間的な猶予及び財務的支援。

